

大阪工大校友会 淡路島支部設立についての学園本部との面談会
2015(平成27)/1/26(月) 於:常翔学園 大阪センター



1 併設のレストラン&
ラウンジ 翔:
ランチは予約要。



2 面談風景:
向かいの机、右が
神戸川(かんべがわ)
常翔学園監事、
左が佐々木工大
校友会副会長。



3 同上:
手前左側の机、
手前が廣島工大
校友会理事、その左
が森垣氏。
向かい左側の机、
左側が辻井常翔
学園総務部校友会
担当課長、右側が
村上六甲支部長。
向かい側の机、
右側が土居氏、
その左側が古匠氏。

(面談内容)

(学園校友会)支部の継続性について:

岐阜支部が休止状況となっている。
支部存続の継続性についての考えは?

→(六甲支部・淡路島支部設立側)

2年の任期内で、次期役員をお願いして行く。
うまく引継ぎ役員が見つからなかった場合、1年留任して、新役員を総会で推薦する。

(学園校友会)支部活動の活性化について:

活動として、支部総会だけしかやっていない支部が5~6支部ある。
支部活動活性化についての考えは?

→(六甲支部・淡路島支部設立側)

参加して、メリットがある、楽しい、と言う事が必要である。
そのためには、支部設立の目的の明確化がポイントである。
又、校友が参加しようと思うような仕掛けが必要である。
仕掛けとしては、「淡路島学」と言った研究会の立ち上げ、同好会の立ち上げを想定している。

→支部の構成員として、会費会員、会員、関係者を考えている。

会費会員とは、会費を納入する者であり、特典として、ホームページに自分のページを持つ事ができる。

会員は、支部登録者、支部活動への参加者である。

関係者は、卒業生その他、中退者、教職員等、何らかの関係を過去に持つ者、摂南大・広島国際大・啓光学園の卒業生及び関係者である。

→名簿の整備、広報体制の整備が重要である。

淡路島支部設立にあたっては、本部の名簿により、校友に対して個別に確認して行く中で、実家はあるが本人は他に在住している者、物故者、連絡先不明であったが判明した者、集まりを持っているグループ等、校友の今日の状況を把握する事が出来た。

(学園校友会)公務員の校友に対する配慮について:

公務員の校友に対する配慮についてはどうか?
ある支部では、公務員の校友の参加が多いが、校友会とは厳密に分けている。

→(六甲支部・淡路島支部設立側)

参加には、十分な注意が必要である。
例えば、「淡路島学」の研究活動に参加してもらう事などは、問題ないとする。

(学園校友会)今後の予定について:

5月の理事会で淡路島支部設立について検討する。
そのため、準備委員会の開催についての予定表を提出する事。
準備委員会には、本部からも出席の用意あり。
準備委員会は10名程度が好い。
予定表の他、支部継続のための方策検討書を提出する事。

(文責 谷守)